

第2期豊富町まち・ひと・しごと創生総合戦略

豊富町役場総務課

1 はじめに

豊富町は、日本の最北端である稚内市から40kmほど南に位置し、南は幌延町、東は猿払村に隣接し、西は日本海に面しています。日本百名山の一つである利尻山を望むことができるとこまでも広がるサロベツ湿原や、総面積1,500haと日本有数の規模を誇りヨーロッパのような丘陵地帯の中で、のんびりと草を食む牛と牧草ロールの牧歌的な風景が広がる大規模草地牧場などの景勝地があり自然と資源に恵まれたまちです。

資源や魅力など“いいところほうふ”な豊富町では「酪農・温泉・湿原」を地域特有の資源として位置づけ、豊かな自然を活かしたまちづくりに取り組んでいます。



©ONSEN MUSUME PROJECT

豊富町位置情報と豊富 水由（温泉むすめ）

豊富町は人口が3,527人（令和6年10月末現在）に対し、牛が約1万3千頭飼養されている酪農のまちです。北海道の中でも北に位置する豊富町の冷涼な気候と広大な牧草地の中で、乳牛たちがストレスなくのびのびと過ごしています。地元の酪農家が搾った新鮮な生乳から自然の風味豊かな「北海道豊富（サロベツ）牛乳」が製造されており、北海道ではコンビニのセイコーマートで販売されていることでおなじみです。

日本最北の温泉郷「豊富温泉」の泉質は油を含んだ温泉でアトピーや乾癬などの皮膚疾患に効能が高いといわれ、豊富温泉の効能を求め全国から湯治客が訪れています。豊富温泉の持つ高い効能は皮膚疾患に悩む方々から「奇跡の湯」とも呼ばれ、油を含んだ泉質は世界には2つ、日本にはただ一つともいわれるほど希少な温泉です。温泉と一緒に天然ガスが湧出しており、エネルギーの有効活用として天然ガスから水素を製造する事業にも取り組んでいます。

「利尻礼文サロベツ国立公園」の一部である「サロベツ湿原」は面積6,700haであり、高層湿原としては日本最大の面積です。どこまでも広がる湿原には、エゾカンゾウなど100種類以上もの花々が咲き、野鳥などの動物たちが豊かな命を育んでいます。2005年にはオオヒシクイなど渡り鳥の中継地、タンチョウの営巣地としてラムサール条約湿地として登録されました。「サロベツ湿原センター」にはサロベツ湿原の歴史の解説や原野を一望できるライブカメラが設置されているほか、約1kmの木道があり湿原を散策することができます。

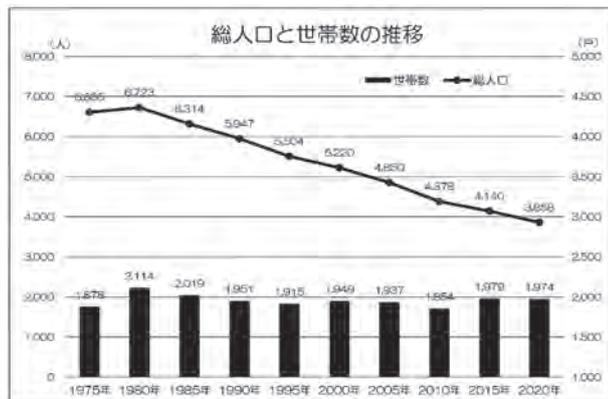


利尻山と牧草収穫作業を行うトラクター

2 第2期豊富町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の背景と趣旨

豊富町の人口は、1953（昭和28）年の11,425人をピークとして、1960（昭和35）年代までは9,000人台を維持していましたが、その後急速に人口が減少し、住民基本台帳によると2024（令和6）年10月には3,527人まで落ち込んでいます。国立社会保障・人口問題研究所による人口推計では、2045年には2,051人になる見込みとなっています。今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な影響が懸念されています。

これらの課題に対応するため、町民の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現を図り、移住を促進するとともに、安定した雇用の創出や地域を守り、活性化するまちづくりを通じて、社会減に歯止めをかけるため、2021（令和3）年3月に第2期豊富町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。



3 豊富町の人口目標

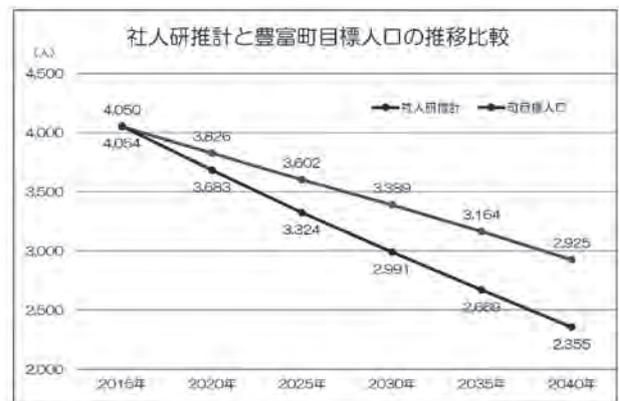
2021（令和3）年度から2025（令和7）年度までの5年間を計画期間とする第2期豊富町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、下記のとおり人口目標を定めています。

- ・豊富町の総人口は2040年に2,925人を目標にする。
- ・合計特殊出生率は、2030年に1.8、2040年に2.07を目標にする。

これらの目標を達成するため、総合戦略における基本的方向と4つの基本目標を定めています。

【基本的方向】

- ① 人口減少に適応した“まち”づくりをすすめる
- ② まちの未来を担う“ひと”づくりを進める
- ③ 地域経済を支える活力ある“しごと”づくりを進める
- ④ 新しい時代の流れを力にする
- ⑤ 結婚・出産・子育てに希望が持てる社会を実現する
- ⑥ 新しい人の流れをつくり、若い世代の定住を促進する
- ⑦ 協働・共生のまちづくりを進める



4 基本目標と具体的な施策

【基本目標1】地域資源を活かした産業振興を図り、安定した雇用を創出する

人々が地域に定着し定住するためには、地域経済の活性化を図り、多様な人材が自らの能力を十分に発揮するとともに、安定的な所得が得られる就業の場を確保することが必要になります。基幹産業であり地域経済を支えてきた酪農の振興をはじめ、地域資源を最大限に活用した一次産業の振興や豊富温泉、サロベツ湿原等、本町の優位性や独自性を活かした産業振興を進めるとともに、地域をあげて産業を支える人材の育成、確保を進めます。

【基本目標2】豊富町の魅力を発信し、新しい人の流れをつくる

まちを代表するブランドになっている「豊富牛乳」や美しく雄大な自然景観をつくり出し、渡り鳥の中継地、営巣地にもなっている「サロベツ湿原」等は、地域特有の資源として、関係人口を創出し、新しい人の流れをつくり出しています。本町の魅力を多方面に発

信するとともに、首都圏をはじめとして様々な地域や大学、企業等との継続的なつながりを持つ取組を進める等、まちへの新しいひとの流れをつくる取組を進めます。

【基本目標3】若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

少子高齢化が続き、人口減少に歯止めがかからない中、恵まれた環境の中で安心して出産し、子どもを育てたいという町民の希望をかなえるため、誰もが子育てしやすい環境を整備し、若い世代の移住・定住人口を増やしていく中で、出生率の向上を図ることが重要になります。また、高齢化が今後もますます進むことが予測されているため、後継者、担い手確保や地域活性化の観点からも、若い世代の地域への定着を図ることが必要になります。そのためには、官民が連携した若い世代の結婚希望を実現するための継続的な取組のほか、妊娠・出産を希望する夫婦に対する支援の充実や、地域をあげた子育てに関する切れ目のない支援を推進し、若い世代が希望を持ち安心して結婚・出産・子育てができる環境づくりを進めます。

【基本目標4】時代にあった地域づくりを進め、安全安心な暮らしを守る

人口減少が進む中でも町民の方々が地域で安心して暮らすためには、地域において必要なサービスの提供が維持され、そこに住み続けたいと思える環境づくりが重要になります。このため、雇用や移住・定住、出産や子育て環境の整備とともに、それらを支える生活環境の充実も重要であるため、住環境の確保や利便性の高い交通ネットワークの維持確保に加え、高齢化社会への対応として、地域医療と介護の連携による支援や地域福祉の充実を図り、地域での支え合いにより、誰もが暮らし続けることができる地域づくりを進めます。

取組事例1

<東京都港区との地域間連携事業>

特別区全国連携プロジェクトによって特別区長会と北海道町村会による協定が締結されたことを契機に、東京都港区と豊富町における国産木材活用の協定でのつながりから港区と宗谷町村会との協定に発展しまし

た。この地域間連携事業は東京都特別区長会が経済、生活全般にわたり、全国の各地域に支えられ成り立っているとして、共に発展・成長し共存共栄を図ることが必要として全国の自治体に連携プロジェクトを呼びかけたことで始まりました。

宗谷町村会では2016（平成28）年度から港区との地域間連携事業をスタートしています。平成28年10月に連携事業の一環として10万人以上が来場する「みなと区民まつり」に豊富町のほか2町で出展し、東京都港区で日本最北の地域である宗谷と各町の観光、特産品などをPRしました。



みなと区民まつり

港区との地域間連携事業はコロナ禍を経た現在でも継続しており、宗谷管内の各町村から継続的に「みなと区民まつり」に出展するほか、「宗谷イチ押しプロモーション」では宗谷町村会に所属する9つすべての町村が参加して宗谷と各町村の魅力を伝えるイベントを港区で開催しています。総合戦略において新しい人の流れをつくり関係人口の創出を目標としている中、地域間連携事業は日本の大都市である東京都港区とのつながりによって新しい人の流れをつくる可能性のある事業となっています。



宗谷イチ押しプロモーション

取組事例2

<結婚・出産・子育てを支えるまちづくりの推進>

人口減少対策と地域の活性化には結婚・出産・子育てがしやすいまちであることが重要になります。

子育てに係わる経済的な支援として2021（令和3）年度から乳幼児おむつ等購入助成を開始し、乳児（0歳～1歳未満）が使用する紙おむつや粉ミルクなどの購入に要した経費に対する支援を開始しました。また、豊富町独自の取組として、0歳から高校3年生までの子どもがいる豊富町在住の世帯へ牛乳やヨーグルトなどの割引券である「牛乳補助券」を交付し、子育て世帯の健康増進と地場産牛乳の消費拡大を推進しています。

子どもが町内で唯一の保育園に入園する時期には、農村部在住の家庭を対象に保育園登園時スクールバス利用による支援を行っています。夫婦共働き家庭が多い中、通園に片道20分以上かかる地区に居住する家庭もあり通園だけでも大変な労力になりますが、スクールバスの混乗による通園によって子育て世帯の負担軽減を行っています。



豊富町立保育園

さらには、地域ぐるみで子ども・子育て家庭を応援する仕組みとしてファミリー・サポート・センター事業を行っています。子育ての応援を受けたい「お願い会員」と子育ての応援を行いたい「まかせて会員」のマッチングにより地域全体で子どもと子育て家庭を助け合い、支えあい、子育てのネットワークの充実を図る取組として実施されています。

小学校入学後には、学びを支え深めるために豊富町

公設学習塾「あすみる」を利用することができます。学習塾では豊富町の子どもたちの「学習に向かうことの習慣づけ」と「学力全体の底上げ」を目指すとともに、地域の方々との関わりのなかで学ぶことにより「ふるさと」への愛着を深め、将来の豊富町を担う人材になってもらいたいという想いを込めて塾は運営されています。



豊富町公設学習塾「あすみる」

おわりに

総合戦略の策定直後に新型コロナウイルスの影響があったことで、新しい人の流れをつくる取組を進めることが難しい時期がありました。また、長引く原油価格、物価の高騰は地域経済へ大きな影響を与えており、地域を取り巻く情勢は大変厳しい状況が続いています。

そのような中、政府が掲げる「2050年カーボンニュートラル」や北海道における「ゼロカーボン北海道」の取組に対応すべく、豊富町では「ゼロカーボン宣言」を行うとともに脱炭素事業を推進しています。温泉とともに湧出する天然ガスの未利用分の利活用として、メタン直接改質（DMR）法によりCO₂が発生しない水素を商用規模で生産する国内初の事業が進んでいます。豊かな自然資源を有する“いいところほうふ”な豊富町特有の取組に大きな期待が寄せられています。急激に変化する社会情勢ではありますが、今後も地域のポテンシャルを活かした取組を進め、持続可能なまちづくりを進めます。